

29年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	I 福祉と養護 ①～⑮
担当講師名	新沼英明
PowerPoint	使用する

<p>授業概要と方法</p> <p>子どもと家族が抱える問題について、児童家庭福祉の理念と諸課題も含めて講義形式で学びます。</p>
<p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の子どもたちをめぐる諸問題と社会的な背景を理解します。 ○子どもと家族をサポートするための福祉制度や法律などの基礎を学びます。 ○子どもの権利とは何かについて学びます。 ○子ども虐待対応の基礎について学びます。
<p>授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)</p> <p>子ども関連の新聞・ニュースなどに目を通しておいてください。</p>
<p>評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)</p> <p>レポート、小レポート及び授業態度により評価します。</p>
<p>参考図書等 子どもの権利条約関係の書籍</p>
<p>その他(受講上のアドバイス等)</p> <p>保育者は子どもが当然に有している「権利」を擁護する立場にあります。ですから子どもの人権についての学修が欠かせません。また、虐待や貧困など、子どもと家族をめぐる諸問題が顕在化しています。それらに保育者がいかに関わっていくかの視点を培うことを目標にしています。</p>

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16時限目が試験となります)
1	8/28	現代社会における児童家庭福祉の位置付け
2	8/28	子どもの権利① (児童福祉法改正を中心に)
3	8/28	子どもの権利② (児童憲章を中心に)
4	8/28	子どもの権利③ (児童の権利条約を中心に) (1日のまとめレポート)
5	8/29	児童家庭福祉の法体系と実施体系
6	8/29	少子化対策 (次世代育成支援対策) と子育て家庭への支援
7	8/29	母子保健と健全育成
8	8/29	社会的養護① (児童福祉諸施設概説) (1日のまとめレポート)
9	8/30	社会的養護② (里親制度を中心とした家庭養護、家庭的養護)
10	8/30	子どもと暴力① (児童虐待の現状把握を中心に)
11	8/30	子どもと暴力② (児童虐待への対応の視点)
12	8/30	子どもと暴力③ (DVへの対応) (1日のまとめレポート)
13	8/31	少年非行と支援
14	8/31	子どもの貧困の現状と課題
15	8/31	まとめとレポート
試		

29年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	Ⅱ 相談支援 ①～⑮
担当講師名	長谷中 崇志(①～⑧) 野崎 真琴(⑨～⑮)
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

今日、核家族化、少子高齢化など、子どもや家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てに関わるニーズは多様化し、保育士には、子どもの保育に加え、保護者を支援すべく知識や技術が求められている。本講座では、それら保護者や家庭を支援する上で必要な基礎知識や技術について理解する。授業方法は、講義、討論形式等。

授業の到達目標

- ① 今日の子育てをめぐる問題とその背景や要因、求められる支援のあり方について理解する。
- ② 社会福祉援助技術(主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク)の基礎知識を身につける
- ③ 保育・社会福祉専門職に求められる価値・倫理を理解する
- ④ コミュニケーションの基本的技法を身につける
- ⑤ 社会資源の基礎知識を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

レポート

参考図書等

その他(受講上のアドバイス等)

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16時限目が試験となります)
1	8/3	社会福祉援助技術とは①
2	8/3	社会福祉援助技術とは②
3	8/3	社会福祉専門職の価値・倫理 ①
4	8/3	社会福祉専門職の価値・倫理 ②
5	8/4	コミュニケーション技法
6	8/4	社会資源の発見・活用・開発①
7	8/4	社会資源の発見・活用・開発②
8	8/4	社会資源の発見・活用・開発③
9	8/21	今日における家庭支援の必要性、意義、対象
10	8/21	家庭の意義と機能
11	8/21	社会状況の変化と子育て家庭への影響
12	8/21	現代の家族関係
13	8/22	子育て支援施策の動向
14	8/22	保育所における家庭支援
15	8/22	子育て家庭に対する様々な支援
試		

29 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	Ⅲ 保健と食と栄養 ①～⑧
担当講師名	木村 達志
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

本講義は、保育士養成課程における「子どもの保健」の内容に準じます。平成 30 年度から新しい保育所保育指針の適用が始まるため、本年 3 月 31 日付で新しい保育所保育指針が告示されました。まず、この内容を確認します。また、無認可保育園における事故は認可保育園の約 3 倍であり、乳児の睡眠中の事故が多いことが指摘されています。平成 28 年 3 月には厚生労働省より教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインが示されていますので、これについても触れたいと思います。論文抄読や事例発表も予定しています。

授業の到達目標

1. 子どもの保健の意義を説明できる。
2. 子どもの身体発育の特徴について説明できる。
3. 子どもの生理機能、運動機能の発達について説明できる。
4. 子どもの事故防止について説明できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

子どもの保健は、子どもの成長や発達、疾病予防や事故防止などの内容に加え福祉的な養護の観点を学修する必要があります。子どもの発育発達やそれにかかわる問題などについて、日頃から新聞やニュースなどから最新の知見を得るようにして下さい。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

評価方法はグループワークの成果と試験により総合的に評価する。

参考図書等

厚生労働省ホームページ、子どもと発育発達(杏林書院)、小児保健研究(小児保健協会)など

その他(受講上のアドバイス等)

グループワークによる演習を予定していますので、疾病予防や事故防止に関して受講生それぞれで現場の事例をまとめておいて下さい。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16 時限目が試験となります)
1	8/17	オリエンテーション：子どもの保健政策と法的根拠
2	8/17	子どもの生活と保健：保育所保育指針
3	8/17	子どもの身体発育の特徴
4	8/17	学術雑誌の抄読
5	8/18	子どもの生理機能
6	8/18	子どもの運動機能
7	8/18	子どもの安全と緊急時の対応：事故対策と救急処置
8	8/18	グループワークと事例発表
9	8/9	(ここから小川雄二先生ご担当)
10	8/9	
11	8/9	
12	8/9	
13	8/10	
14	8/10	
15	8/10	
試		

29年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	Ⅲ 保健と食と栄養 ⑨～⑮
担当講師名	小川 雄二
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

「保健と食と栄養」のうち、「子どもの食と栄養」の内容を7回で講義します。効率的に授業を進めるために、授業の内容を記載したプリントを配布して、それに沿って進めます。プロジェクターも使用します。

授業の到達目標

保育士として必要な「子どもの栄養の基礎知識」と「保育士として食育に取り組むことができる実践力」を身につけることがこの授業の到達目標です。具体的な目標としては①子どもの体の発育や摂食能力・食習慣の発達、②食品の成分や栄養素、③乳児期、離乳期、幼児期の栄養と発達の特徴 ④食育の理論と進め方 ⑤アレルギーの子どもへの支援などを学びます。その力を踏まえて、保育士として、子どもと保護者に対して食育を実践するための力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

授業内容を記載したプリントを配布しますので準備学修・事後学修に活用してください。ふだんの自分自身の食生活についても見直すとともに、栽培体験や食事を作ったりすることにも取り組んで下さい。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

筆記試験を実施します。

参考図書等 子どもの食と栄養(建帛社) (講義では使用しません。)

その他(受講上のアドバイス等)

授業の合間や終了後に質問をお受けします。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16時限目が試験となります)
1	8/17	
2	8/17	
3	8/17	
4	8/17	
5	8/18	
6	8/18	
7	8/18	
8	8/18	(ここまで 木村達志先生 ご担当)
9	8/9	第1章 子どもの健康と食生活の意義
10	8/9	第2章 栄養の基本概念と栄養素の働き
11	8/9	第3章 子どもの発育・発達と栄養
12	8/9	第4章 授乳期の意義と食生活
13	8/10	第5章 離乳期の意義と食生活
14	8/10	第6章 食育の基本と内容
15	8/10	第7章 子どものアレルギーの基礎と対応
試		9～15についての試験

29 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	Ⅳ 乳児保育 ①～⑮
担当講師名	原田 明美
PowerPoint	使用する

<p>授業概要と方法</p> <p>乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から3歳前半の発達の特徴やあそびの内容、保育者の役割、乳児保育で大切にしたいことなどを学びます。</p>
<p>授業の到達目標</p> <p>人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論と保育の事例から学びます。また教材研究等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。</p>
<p>授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)</p> <p>参考図書などを読んでください。</p>
<p>評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)</p> <p>グループ討論での姿勢・授業態度・筆記試験を合わせて評価します。</p>
<p>参考図書等 「子どもとつくる0歳児保育」「子どもとつくる1歳児保育」「子どもとつくる2歳児保育」ひとなる書房</p>
<p>その他(受講上のアドバイス等)</p> <p>この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学びます。</p>

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16時限目が試験となります)
1	7/27	オリエンテーション
2	7/27	0歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
3	7/27	0歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
4	7/27	0歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
5	7/28	1歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
6	7/28	1歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
7	7/28	1歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
8	7/28	2歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
9	7/29	2歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
10	7/29	2歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
11	7/29	3歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
12	8/2	乳児保育が社会で果たす役割
13	8/2	乳児保育での保育者の役割・乳児保育のこれまでとこれから
14	8/2	乳児保育の保育記録と保育課程Ⅰ
15	8/2	乳児保育の保育記録と保育課程Ⅱ
試		試験